

平成二十七年九月投句

老ならん言ふてしまひて秋の風

倒木に咲く昼顔や野分後

スーパーを出て芋下げて夕茜

残り香の千人草や野路の秋

人寄れば秋の蚊少し増えてきし

飾り羽ゆらぎて風に池の秋

両の手にこぼれるほどの零余子かな

ぼろぼろと落とさぬように零余子摘み

芋虫に思いがけない力あり

勝利

山の湯の豊冷やか茶を淹れて

堰堤の塔に銘あり秋の風

みんなや新築なりし駐在所

土砂崩れありて迂回の葛の道

遅れ来る人やゝ不安野分あと

さり気なく見送りくれし草の花

大出水家財投げ捨つ老の背ナ

奇遇とは真にこのこと涼新た

露けしや都心の地下の地下に人

光子

佳与子

真理子

節子

由紀子